

かみのまちいせき

上ノ町遺跡

(茅ヶ崎市No.148 遺跡)

調査期間
20060401～20060731
20070201～20070430

所在地
茅ヶ崎市西久保地先

時代
古代
中・近世



概要

今回の調査は、1981～1983年の新湘南国道建設に伴う発掘調査区域と1996～2001年の一般国道468号(さがみ縦貫道路)建設に伴う発掘調査区域に挟まれた空白域を調査するものです。予想通り、中近世を中心とした遺構の展開がみられました。上ノ町遺跡の中世集落を検討する上で新たな資料を提示したと言えます。

近世では溝・土坑・土坑墓・井戸・畝状遺構などが検出されました。大きなイノシシの獣骨が完全に近い形で発見された溝もありました。

中世では溝・土坑・竪穴状遺構・窪地状遺構・井戸・多数のピットが発見されました。竪穴状遺構では複数の完形のかわらけが出土しました。井戸では小刀が出土した例や木製桶や曲物が出土した例がありました。窪地状遺構は溜め池状の施設であった可能性があります。

また古代については竪穴住居や溝、土坑が散発的な出方をしたにとどまりました。

古墳時代は意外にも大規模な溝(または自然流路)が発見され、微高地がやや盛り上がる地点の小丘裾部つまり地形の境目に当たる部分に掘り込まれているものと推定されます。水などの流れやすい場所であり、水利施設の可能性があります。



▲近世 イノシシの獣骨が出土した溝



▲中世 かわらけが出土した竪穴状遺構



▲中世 桶・曲物が出土した井戸